

ギムザ染色

市立大津市民病院
臨床検査部

前田 賢矢

第46回日本臨床細胞学会近畿連合学術集会
COI開示

利益相反の有無：無

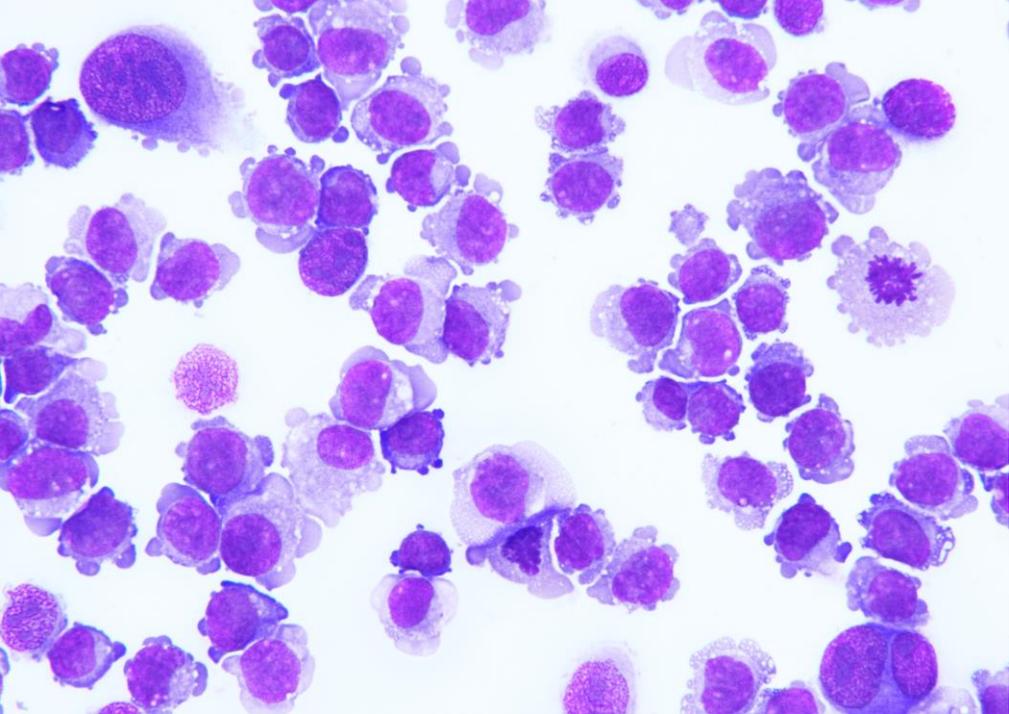
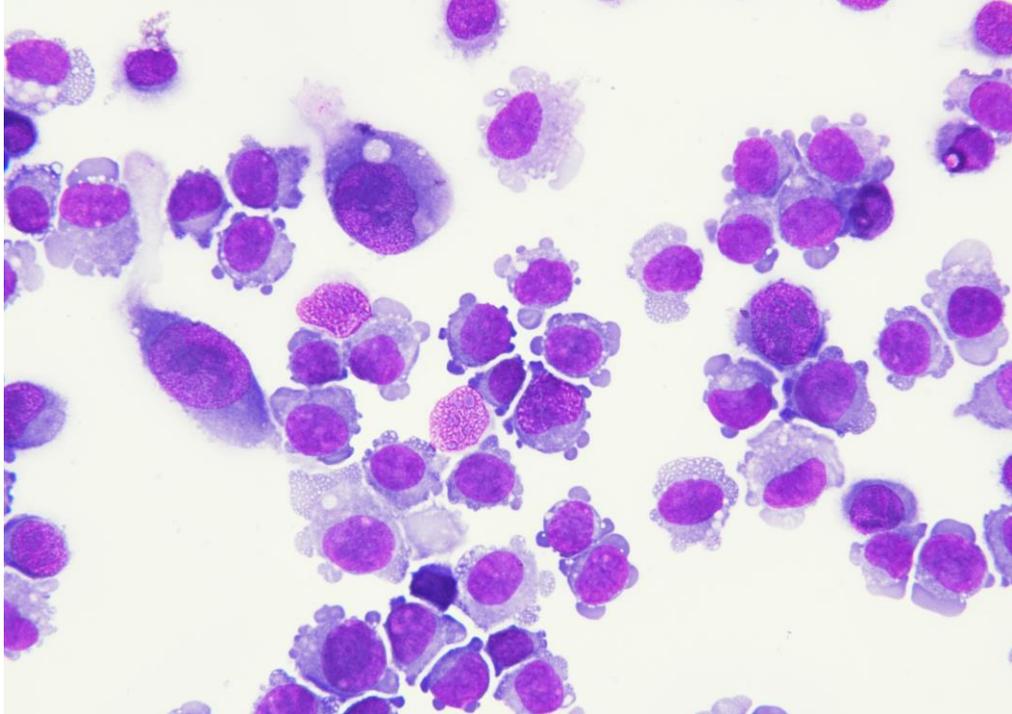
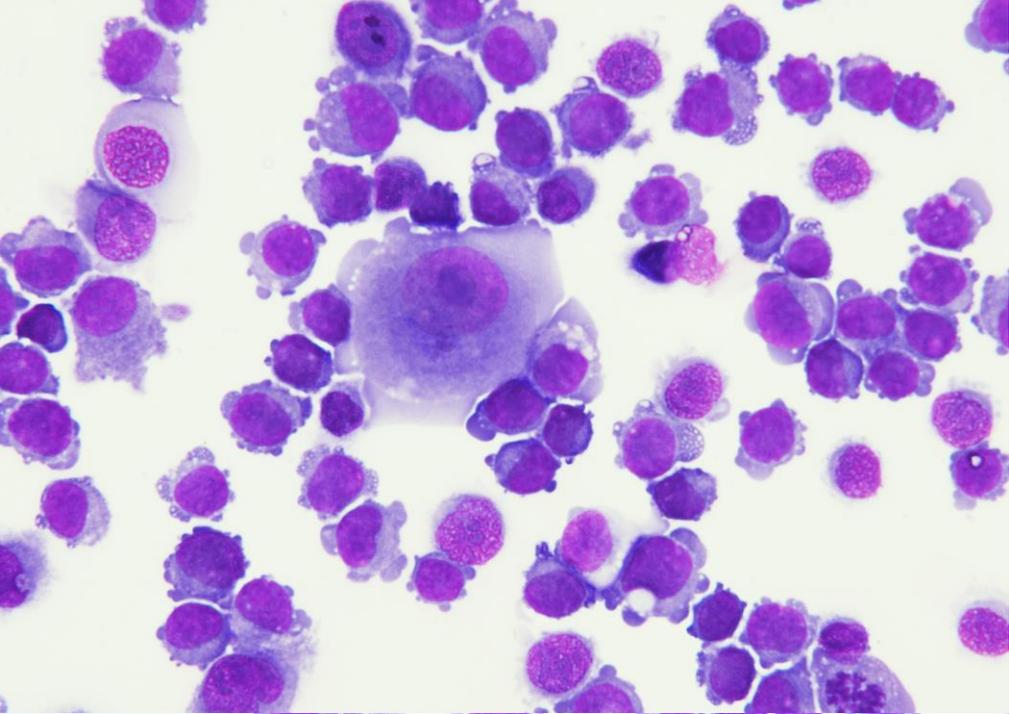
この演題に関連し、開示すべきCOI関連にある企業などはありません



染色手順

1. 塗抹後、即冷風乾燥
2. メイグリュンワルド液 1分
3. リン酸緩衝液を等量載せ、混和させる 1分
4. 塗抹裏面を水洗し、余分な染色液を拭き取る
5. ギムザ希釈液（リン酸緩衝液＋ギムザ染色液） 15分
6. 水洗
7. 乾燥
8. 封入





染色に関する当院の注意点

- 十分な乾燥
→細胞の形態変化・固定不良を防ぐ
- 染色液の濃度・時間の調整
→細胞数や赤血球量により時間・ギムザ希釈液の濃度を調整
希釈にはpH6.4のリン酸緩衝液
- 水洗
→結晶成分・塩類の析出を防ぐため丁寧に



まとめ

ギムザ染色がもたらすは情報量は多く、細胞判定に影響を与えるものが多い。

細胞本来が有する性質を正しく読み取るために、染色の原理を理解し、美しい標本作製することが大切。

